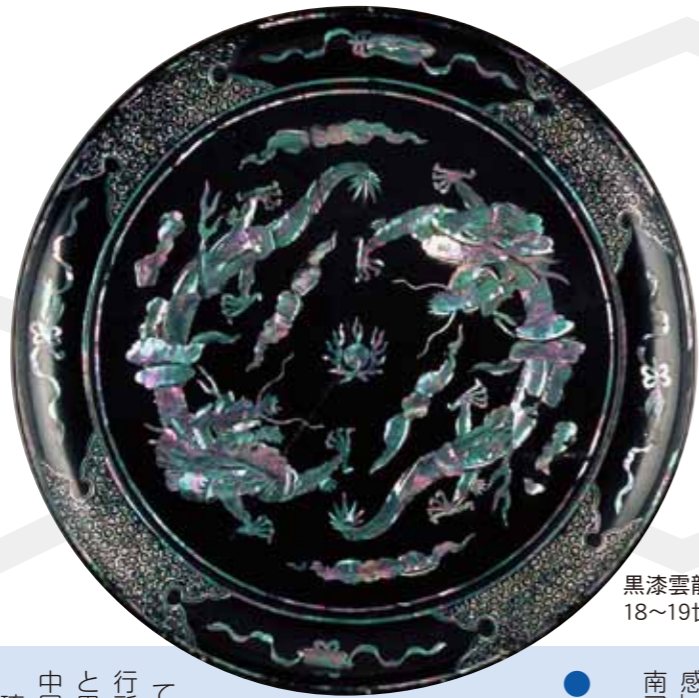


# きよらかさ 77

浦添市美術館ニュース  
2015年8月1日(年3回発行)

きよらかさ:  
「美しさ」「きよらかさ」を表す  
琉球の古語



黒漆雲龍螺鈿大盆  
18~19世紀

## 平成27年度第II期常設展 「五感で楽しむ琉球漆器」

平成27年度第II期常設展は、「五感で楽しむ琉球漆器」です。

視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚といった「五感」をテーマに、琉球漆器や中国、日本、東南アジアなどの漆器を紹介いたします。

### ● 視覚「目」で楽しむ琉球漆器

琉球漆器の歴史を、時代にそって紹介いたします。

例えば、表紙の作品「黒漆雲龍螺鈿大盆」は、螺鈿技法で、火炎宝珠を中心に二匹の龍と瑞雲などを表した大盆です。五つの爪をもつ龍は中国皇帝のシンボルとされ、大変格式高い文様でした。そのため、このような文様の盆は中国へ贈る特別な献上品として、17~19世紀にかけて、琉球王府の漆器製作組織である貝摺奉行所で盛んに製作されました。当時献上したと思われる同じ文様の小さいサイズの盆が、中国の北京宮博物院に収蔵されています。琉球の歴史とともに、漆器の文様や色が変化していく様子を「目」でお楽しみください。

### ● 聴覚「耳」で楽しむ

沖縄や東南アジアで作られた、漆が使われている楽器等を紹介いたします。さわられる楽器も展示予定です。「耳」で漆器をお楽しみください。

立と競合、合流と混合により日本洋画界はさらに新展開の時代を迎えることとなります。

### 山本芳翠の「琉球風景」

明治二〇年(一八八七)、ときの内閣総理大臣・伊藤博文は九州・沖縄の視察を行い、山本芳翠(一八五〇-一九〇六)も同行したと伝えられています。琉球の風景や人物、風俗画二〇点を描き、首里城美福門を描いた「琉球中城東門図」などが知られています。本展覧会の山岡コレクションには「琉球風景」(A)(B)の二点が含まれており、何か物語を連想させる興味深い作品です。沖縄で鑑賞できる貴重な機会といえるでしょう。

参考・引用 図録「日本近代洋画への道」日動出版



山本芳翠 琉球風景(B)  
明治20-21年(1887-88)

### 美術館で過ごす夏

鑑賞ガイドや子どもたちのワークシートをご用意しました。大人も子どもも、ゆったりとご観覧ください。  
関連イベントは3頁。

### 観覧料金(当日券のみ)

一般 / 800円(640)  
高・大学生 / 500円(400)  
小・中学生 / 300円(240)  
( )は20名以上の団体



高橋由一 鮭図  
明治12-13年(1879-80)

江戸時代末から明治時代、政治的にも文化的にも日本は大きく転換しました。本展覧会ではこの時代の日本洋画のパイオニア約七〇人、二〇〇点を三章に構成して紹介します。

これらの作品は、幻のコレクションといわれた山岡孫吉氏(一八八八-一九六二年・ヤンマーディーゼル創業者)による近代日本洋画の一大コレクションです。現在は笠間日動美術館が所蔵して公開しています。

激動の時代を駆け抜けた画家たちの軌跡と秀作の数々をお楽しみください。

浦添市市制施行45周年・浦添市美術館開館25周年記念

沖縄初公開! 高橋由一「鮭図」、山本芳翠「琉球風景」

ここから始まる!

## 日本近代洋画への道

山岡コレクションを中心に

The Pioneers of Modern Japanese Oil Painting

8月14日(金) - 9月23日(水)

### I章 江戸幕末の洋風画

日本における洋画のルーツは一六世紀半ばのキリスト教伝来までさかのぼります。本格化するのはヨーロッパの文化が再び移入された江戸時代後期から幕末にかけての時代です。江戸系洋風画、秋田蘭画、長崎系洋風画などが次々と生まれました。

洋画の父と称される高橋由一(一八二八-一九〇四年)は手さぐりで絵筆をとり、三九歳の時にイギリス人のワーグマンを訪ねて、初めて油彩画の手ほどきを受けました。五姓田義松、山本芳翠などもワーグマンに学んでいます。由一の「鮭図」は六〇歳の晩年の作品で、複数存在します。年末や正月の進物である新巻鮭をリアルに描いています。

### II章 明治初期留学生と工部美術学校

明治初年から二〇年頃にかけて、百武兼行らはヨーロッパへの留学を果たしました。動機は様々で、留学中に他分野から絵画へ転向した人もいました。明治政府は明治九年(一八七六)に工部美術学校を創立して西洋美術教育に着手。イタリアから教員を招きます。浅井忠や小山正太郎とともに山本りんなど女性画家も輩出しました。

しかし、国粋主義の高まりや伝統美術



青木繁 二人の少女  
明治42年(1909)

明治二六年(一八九三)、黒田清輝と久米桂一郎がフランス留学から帰国して、洋画界に新風を吹き込みます。

黒田らは、明るい色彩を求めた外光派のラファエル・コランに師事。明治二九年(一八九六)白馬会を結成し、藤島武二や青木繁など明治後期に活躍する画家たちが台頭します。白馬会の運動は古典主義に対する浪漫主義といった側面を持っていました。

白馬会系の新派II紫派に対し、旧派II脂派の明治美術会からは満谷国四郎や中村不折らが明治三四年(一九〇一)に太平洋洋画会を結成して対抗しました。

明治四〇年(一九〇七)、文部省美術展(文展)がスタートします。各派の対

### ● 嗅覚「鼻」で楽しむ

香水入れや香合、煙草盆など、「鼻」で楽しむ漆器は様々あります。ここでは、その種類や用途などを紹介いたします。

### ● 味覚「口」で楽しむ

漆器は古くから飲食器に用いられてきました。ここでは、テーマに分けて飲食に使用する作品を紹介いたします。

日常生活や、行楽の際に使用する漆器、ちよつと変わったデザインの作品を展示します。お気に入りの作品を探してみてください。

### ● 触覚「手」で素材を楽しむ

漆器は様々な素材から作られている事を知っていますか?

ここでは、木、竹、紙などの素材で作られた作品を展示します。さわられる漆器もありますので、漆器の素材の違いを、実際にさわって感じてみてください。

今回の展示は、見て、さわって、からだ全体を使って作品をご鑑賞いただけるよう工夫をしています。この機会に、身のまわりにある漆器や、琉球の歴史に興味を持っていただけると幸いです。

会期	平成27年9月17日(木) - 1月11日(月)
観覧料	一般 150円 大学生 100円 高校生以下 無料